

【高等学校用】

令和4年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名	佐賀県立唐津西高等学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>「双松の力」(知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力)の育成に向け全職員で組織的協働的に取り組んだ。</li> <li>地域の人的・物的資源を活用し、保護者や地域の力を学校教育活動全体に積極的に生かしながら教育活動を推進した。</li> <li>続くコロナ禍により教育活動が制限されたが、最大限の効果が得られるよう、内容の精選、ICTの活用など様々な工夫を行った。</li> <li>学校教育目標「地域社会の未来を担う志のある人材の育成」に基づき、来るべきSociety5.0の社会を逞しく生き抜き、持続可能な社会の担い手として、ふるさと佐賀を誇り思い、国際社会や我が国、そして何よりも地域社会に貢献できる志のある人材の育成に向け、スクールポリシーを見直し、新たに整理・策定した。</li> </ul>
2 学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域社会の未来を担う志のある人材の育成</li> <li>地域課題を自ら見出し、人とのつながりを大切にしながら、解決に向けて行動することができる力の育成を図る</li> </ul>
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域に信頼され、選ばれる学校づくり(コミュニティ・スクールを活用した魅力と活力ある高校づくり)</li> <li>「自ら問いを立てる」力の育成と多様な進路先の実現</li> <li>地元唐津をフィールドとした特別活動・生徒会活動・ボランティア活動等の充実</li> </ul>

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
				●学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教師の指導力の向上。</li> <li>○生徒の理解度の向上。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒による授業評価の満足度80%</li> <li>○ICTを活用し動画配信及びオンライン授業に取り組んでいる教員の割合90%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教科年2回以上の授業見学会を実施する。</li> <li>○ICTを活用し動画配信及びオンライン授業を実施する。</li> <li>ICT研修(Classi, オンライン等)を実施する。</li> <li>授業評価結果を踏まえた授業改善に取り組む。</li> </ul>
●進学意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>○進学意識の向上</li> <li>○多様な進路選択の支援と大学進学実績の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○大学進学希望者の割合70%</li> <li>○国公立大学 合格者 90名</li> <li>私立大学 合格者 100名</li> <li>公務員 合格者 4名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年、教科、分掌と連携し、時機に応じた情報提供、集団指導、個別指導、講演会等を企画し、実施する。</li> <li>国公立大学 合格者 90名</li> <li>私立大学 合格者 100名</li> <li>公務員 合格者 4名</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>面接、小論文、難関大指導が必要な3年生延べ179名を全職員で指導し、放課後特課や学習会等を活用した結果、学校推薦型・総合型入試で国公立大学22名、私立大学50名の合格につながった。一般入試の結果も期待できる。</li> <li>公務員専門学校と連携し、計画的に早くから準備を進めることができたおかげで、昨年より受験する生徒は少なかったが、唐津市役所に2名合格した。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>着実に実績が出ている。</li> <li>総合型・学校推薦型選抜に挑戦する生徒も増えている。</li> <li>進学や就職の“その先”まで描ければいい。</li> </ul>
●心の教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動</li> <li>●いじめの早期発見、早期対応体制の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●情報モラルに関する意識及び知識を持っている生徒80%</li> <li>○「いじめ防止及び対応等について」満足している生徒の割合95%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報モラル・人権に関する講演会やLHRを実施する。</li> <li>提議者と協働し明るく気持ちのよい挨拶を推進する。</li> <li>ハナコフェア(人命救助に尽くした先輩に関する取組)の充実を図る。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権学習・進路保障LHRを7月14日に全学年で実施した。</li> <li>ハナコフェアは6月14日に実施。講師は比田井和孝氏(上田情報ビジネス専門学校副校長)</li> <li>情報モラルに関する意識及び知識を持っている生徒の割合は95.5%であった。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>成果指標の調査方法は生徒自身へのアンケートでは不十分。</li> </ul>
●健康・体づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>○夢や進路希望の実現に向けて努力する教育活動の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「唐津検定」合格者70%</li> <li>○ループブック評価における「地域力」の生徒の自己評価の平均値3.0</li> <li>○キャリアパスポートの活用率100%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>唐津検定受検を奨励する。</li> <li>ふるさと佐賀を誇りに思う教育講演会を開催する。</li> <li>総合的な探究の時間、特別活動を中核とした教育課程を編成する。</li> <li>ループブック評価及びキャリアパスポートを定期的に活用し、的確な振り返りを行わせる。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>唐津検定を10月に実施、合格率は46.5%であった。</li> <li>キャリアパスポートは各学年で計画的に活用している。活用率100%</li> <li>来年度から実施する、総合的な探究の時間の3年間を見通したカリキュラムを作成した。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>唐津検定の合格率が下がっていることの原因分析が必要。</li> <li>「総合的な探究の時間」のカリキュラムは評価できる。</li> <li>キャリアパスポートが現3年生が進路選択や決定時(志望理由書作成時など)にどのように活用できているか検証が必要。</li> </ul>
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●感染症予防対策実施率100%(マスクの着用、うがい・手洗い・手指消毒)</li> <li>○歯科の再受診率30%、その他は60%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>集会等での呼びかけや教室・廊下のポスター掲示・保健だより等により意識の向上を図る。</li> <li>学期毎1回以上の生活習慣アンケートを実施する。</li> <li>学校医との連携を密にして受診勧告及び啓蒙を行う。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>室内におけるマスク着用の推奨が徐々に緩やかされてきているが、校舎内ではほとんどの生徒がマスクを着用し、感染防止の意識を高く持って行動することができた。教室の換気も徹底することができた。</li> <li>受診率は、内科21.7%、歯科16.5%、眼科21.1%、耳鼻科8.9%、視力25.2%であった。</li> <li>生活習慣アンケートは6月に1回実施できた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>再受診勧告書の配布回数を増やしたり、保護者への訴えかけを工夫し、再受診率の向上を図ってほしい。</li> </ul>
●特別活動・生徒会活動・ボランティア活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○部活動の活性化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○部活動をとおして主体性が身についたと思う生徒の割合70%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体で部活動の取組を共有するとともにリーダー研修会を開催する。</li> <li>生徒主体の練習計画や振り返りを実施する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>清掃活動などの地域貢献活動に部活動単位での取り組みが少なからずできたが、まだ小規模にとどまる状況である。</li> <li>主体性を持って活動している生徒は目標程度は存在するが、具体的な指針を表現できる生徒の割合はまだ低い状態である。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体性を促す仕掛けが必要だと思う。</li> <li>部活動では、協調性など他の点を評価しても良いのではないかと感じる。</li> </ul>
●地域に信頼される学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>○開かれた学校づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校HPへの更新100回</li> <li>○学校行事へのアクセス数240件</li> <li>○学校開放日における保護者の授業参観者数50名</li> <li>○重点目標を知っている保護者の割合60%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>HP、メール配信、SNSの活用による学校の情報発信を行う。</li> <li>中学校訪問及び中学生の学校見学会の充実。</li> <li>学校開放日の取組内容の工夫を図るとともに開催についての周知を徹底する。</li> <li>地域の活動に積極的に参加する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>HP、メール配信、SNSの活用による学校の情報発信を行うことができた。</li> <li>○11月12日の学校開放日における保護者の授業参観者数は61名であった。</li> <li>○11月12日の秋の体験入学では、部活動体験会、授業公開を行い51名の中学生の参観があった。</li> <li>○保護者アンケートの結果では、重点目標を知っている保護者の割合63%で昨年度よりも上昇した。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページの更新頻度など評価できる。継続した取組をしてほしい。</li> <li>体験入学時に中学生が進路選択をする上で重視しているポイントなどについてアンケートを実施することも学校運営に活かしていきたいと感じる。</li> </ul>

5 総合評価・次年度への展望	<p>「双松の力」の育成を図り、全職員で組織的に、そして、協働的に教育活動に取り組んだ。特に、地域の人的・物的資源を活用し、保護者や地域の力を教科指導をはじめ学校教育活動全体に積極的に生かしながら、教育活動に邁進した。コロナ禍が続き、教育活動が制限される中でも、最大限の効果が得られるよう様々な工夫を行った。次年度も良い面は残し、不備な部分は改善していく。そして、「地域社会の未来を担う志のある人材の育成」に基づき、総合的な探究の時間を中核とした教育課程の編成を進めている。次年度は、総合的な探究の時間を系統立てて構築する。また、これまで以上に様々な体験活動を取り入れて、それおw学びに繋げて、進路実現を目指していく。その上で、ふるさと佐賀の郷土と自然を誇り思い、国際社会や我が国とともに地域社会に貢献できる心豊かな志のある人間の育成に努めていく。</p>
----------------	--

●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育 ★...唯一無二の誇り高き学校づくり